## 審査の結果の要旨

論文提出者氏名　タイラ アロンソ ジン ハビエル

本論文は都市・建築空間の変遷を［re］DEFINITION（再定義）という概念を用いて、記述、分析する方法論について論じたものである。あらゆる都市・建築空間は、時代と共に変化してゆくが、そこに働く為政者、計画者、使用者等の意図を、空間を変遷させる力と変化する様相の観点から見た場合に、それらは一連の動詞（verb）と属性（attribute）に還元できる。それらをリストアップし、類型化することにより、カタログ化することができるが、このカタログを用いることにより空間的な変遷を説明、あるいは予想することが可能になる。本論文は、［re］DEFINITION の概念を明確にし、この概念の基に江戸から東京への変遷を分析することにより、その方法論的な可能性を検討すると共に、その有効性を検証することを目的とする。

論文は［re］DEFINITION を扱ったメインの部分と、その応用である［re］TOKYO のふたつの部分から成る。前者は、［re］INTRO、［re］THEORY、［re］CATALOG の３章から成り、後者は［re］TOKYO　DATA と［re］TOKYO　CATALOG の２章から成る。

先ず、前半部分の概要を解説する。［re］INTRO では、［re］DEFINITION の概念はあらゆる時空間に現れるが、その変化の源を定義、時間、希求、効率、実存、適応６つの概念により説明している。

［re］THEORY では、変化を起こすもの、変化するもの、変化の再定義そのものについて考察している。現存するものは、それ以前に存在していたものが変化したものとして認識されるが、ここでは誰が、何を、いかに変化させたかという観点が基本となる。

［re］CATALOG では基本的な再定義の過程を、階層化したカタログとして表現している。カタログ化するためには、ものを組織化するメカニズムとなる構造が必要であるが、ここでは中国の易教からインスピレーションを得ている。その理由は、江戸の形成に際して、儒教と風水が大きな影響を与えたことによる。そして陰陽道に基づく八卦に対する考

察を行い、あらゆる変遷は動詞と属性の形に還元され得ることを見い出している。

次に、後半部分についてであるが、[re] TOKYO DATA では、江戸から東京への変遷過程における様々な特性を３４のテーマのもとに分析している。これらのテーマは年代順にデータカードとして表現されている。記述してあるのは、再定義の要旨、周辺地図、写真、図表等で、そこには東京のカタログに記載されるべき動詞と属性が明示されている。テーマとして選ばれたのは以下の事象である。起源、土地、道路、居住、削除、歓楽、歌舞伎、インフラ、火災、デパート、人口、大使館、官庁、市場、交通、公園、工場、様式、スラム、計画、境界、郊外、空港、軍隊、中心、教育、相撲、行商、刑務所、橋梁、図書館、浴場、ランドマーク、寺院。これらの内で、特に最後の寺院の項では、浅草の寺院についての詳細な変遷過程が述べられている。

[re] TOKYO CATALOG では、先の分析で得られた動詞と属性に対して、八卦の分類手法を援用して、江戸から東京への変化の有様をカタログ化し、それを一覧表として提示している。このカタログの意義として、単なる分析だけではなく、デザイン理論や都市計画の手法としても用いられることが挙げられ、普遍的な都市論へと展開してゆくことが可能なものと結論づけている。

以上要するに、本論文は空間の変遷の様相を [re] ＋動詞およびその属性の集積として捉え、その系譜を分析することにより、変化の過程が説明できるという主張で極めてユニークな空間論になっている。この手法の有効性を検証するために、江戸から東京への様々なテーマに対して適用しているが、その結果から判断して、ものごとの変遷を統一的に語る文法のひとつが成立したものと判断される。この手法を用いることにより、従来はその時代、場所に固有の概念で説明されていた空間的な変容が、統合的な文脈の基に語りうることが示されたといえる。これは都市・建築の計画学の分野に新たな方法論を導入するものとして、その意義は大きい。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。